※撮影時は感染症対策を万全にし、一時的にマスクを外しています。

▲引退後、早稲田大学大学院で相撲部屋の経営を研究された荒磯親方。土俵を複数置くなど、新しい部屋運営が注目されています。

茨城で次世代の力士を育てる

元稀勢の里の荒磯親方が市役所に来庁

大相撲第72代横綱 稀勢の里関として2019年まで活躍した荒磯親方が、８月１日付で田子ノ浦部屋から独立し、阿見町に「荒磯部屋」を創設することの挨拶のため、６月２日に市役所に来庁しました。「茨城へ恩返しを」と話す荒磯親方。両国国技館から離れた地であるものの、広大な環境を生かした育成が期待されています。谷島市長は「新型コロナが落ち着いたら、ぜひ弟子の皆さんと一緒に、自然豊かな石岡へお越しください」と話しました。

迅速かつ適切な対応で人命救助

サミットゴルフクラブの職員３名に感謝状を贈呈

サミットゴルフクラブ（嘉良寿理）職員の大内雅義支配人・岩瀬弘行副支配人・岩瀬幸子さん（キャディ）は、今年１月、プレー中に心肺停止に陥った男性に対して適切な救命処置を施し、命を救ったとして、６月３日に市長から感謝状が贈られました。

同クラブでは毎年救急講習会を開催しているとのこと。谷島市長は「事業所として普段からの準備と努力があったからこそ。尊い命を救ってくださった皆さんに感謝を申し上げます」と話しました。

▲左から岡野消防長、大内雅義支配人、岩瀬幸子さん、岩瀬弘行副支配人、谷島市長

▲小学生から大人まで、幅広い年代のランナーが出走。会場では、声援の代わりに大きな拍手が響きました。

２年ぶりにタスキをつなぐ

石岡運動公園で開催「いしおかリレーカーニバル」

６月６日、石岡運動公園で「いしおかリレーカーニバル」が開催されました。

種目はフルリレーの部（42km）と10kmリレーの部に分かれ、合計31チーム188人が参加。それぞれ家族や友人、会社やランニングチームの仲間と出場し、記録を競いました。

昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止。２年ぶりとなる今回は、健康状態の確認や消毒など、徹底した感染症対策の上で行われました。

▲日本画・洋画・彫刻が展示された第１期の様子。開催期間中、853 人の観覧者が幅広いアートを楽しみました。

市内美術愛好家の日々の成果を展示

八郷総合支所で開催 第５回・石岡アート協会展

６月８日から 27 日まで、八郷総合支所１階「郷の風」で、石岡アート協会会員による作品展「第５回・石岡アート協会展」が開催され、３期間に分けて、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書・写真・（デザイン）の作品 145 点が展示されました。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により開催できませんでしたが、今年は、手指の消毒や検温、いばらきアマビエちゃんへの登録を呼びかけるなど、感染症対策を万全にして開催を迎えました。

県内一のトンネルへ

（仮称）上曽トンネル 現地説明会が開催

６月 12 日、石岡市と桜川市を結ぶ（仮称）上曽トンネルの掘削現場で、近隣住民を対象とした現地説明会が開催されました。

掘削開始から約５か月。この日までに進んだのは約 100m ですが、完成した際にはトンネル部分の長さが 3,538m となり、県内最長のトンネルになります。説明会では、掘削作業に使用している大型重機の実演などもあり、普段見ることのない大きな機械に、参加した子供たちも興味津々の様子でした。

▲掘削工事の行く手を阻む花崗岩の硬い岩盤。爆薬を使った発破掘削を 24 時間体制で行い、少しずつ掘り進んでいきます。トンネル開口部には騒音・振動対策として、二重の防音扉が設置されています。

▲体験した児童は「お寺や神社のいくつかは、今も残っていることを知って驚いた」「昔は田んぼや畑が今よりたくさんあったことがわかった」など気付いたことを話しました。

柿岡小学校ふるさと学習

およそ 300 年前の地図から地域を学ぶ

６月 15 日、柿岡小学校４年生の児童 20 人が、享保９（1724）年に描かれた『柿岡村絵図』を、昭和 61 年に柿岡在住の郷土史家が複製した地図などを使って学びを深めました。児童たちは、講師の小林正文先生による地図の解説を聞きながら、手作りした家のカードを当時の柿岡村の地図上に置いていました。

飯塚信久校長は「自分たちの住んでいる地域の歴史を楽しく学ぶことで、ふるさとに誇りと愛着を持ってもらいたい」と思いを話しました。